

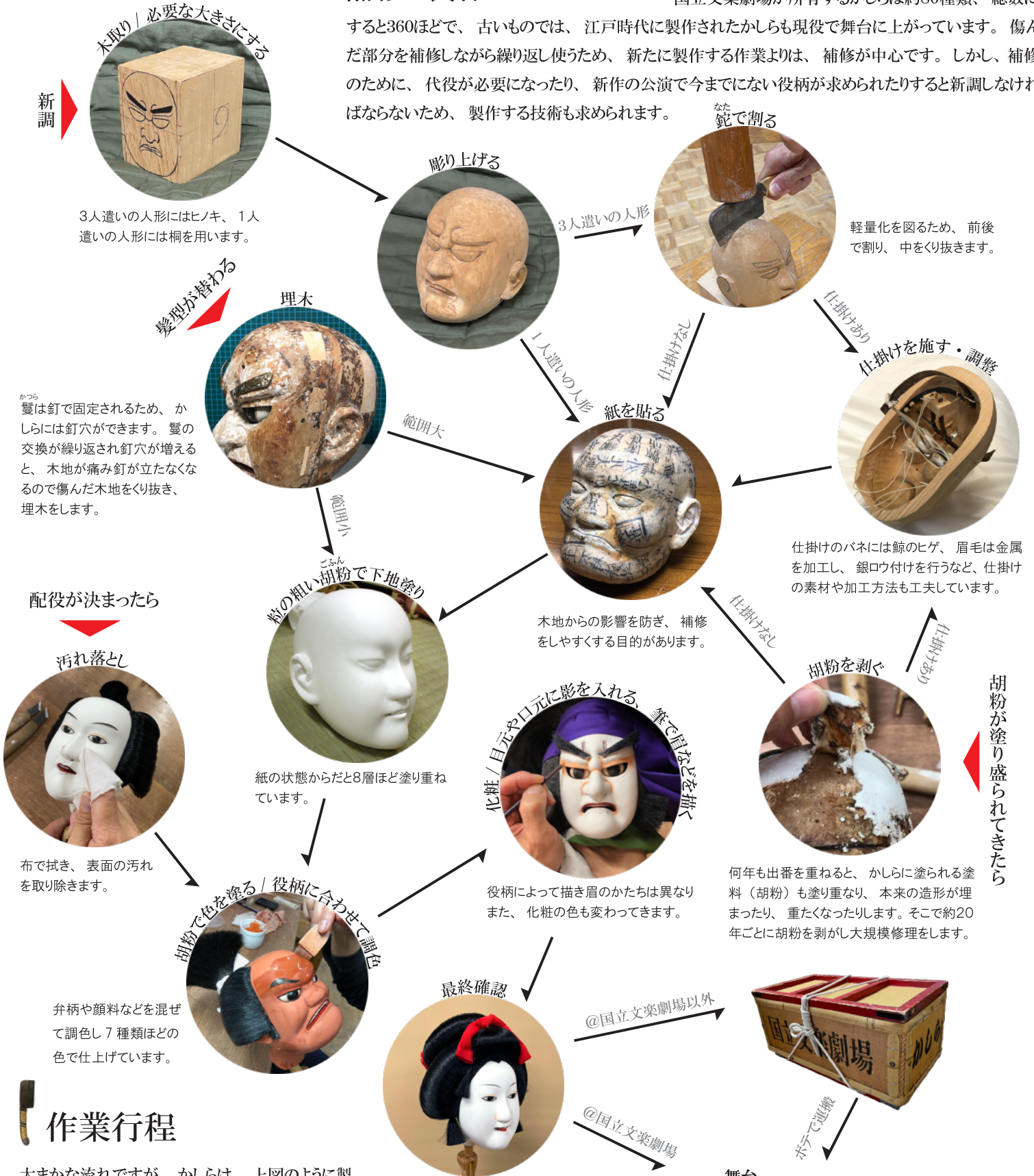
どんな職場？

現在3名の職員でかしら係の業務を担当しています。文楽人形を専門とした学問や学校はないため、3人の学んできた分野はそれぞれ異なりますが、入職後、一から技術を習得しています。基本的には、国立文楽劇場内にある作業室で公演準備などを行います。東京公演や地方公演など文楽公演が他で開催される場合には、同行して前準備を行い、公演に立会います。地方公演では毎日のように会場が変わるので、その度にボテと呼ばれる行李を用いた荷造りや荷ほどきで力仕事もあります。

補修と製作

国立文楽劇場が所有するかしらは約80種類、総数に

すると360ほどで、古いものでは、江戸時代に製作されたかしらも現役で舞台上がっています。傷んだ部分を補修しながら繰り返し使うため、新たに製作する作業よりは、補修が中心です。しかし、補修のために、代役が必要になったり、新作の公演で今までにない役柄が求められたりすると新調しなければならぬため、製作する技術も求められます。



作業行程

大まかな流れですが、かしらは、上図のように製作・補修が進みます。手足についても同じような行程を踏みますが、その種類によって異なります。また、かしらによって施される仕掛けも様々で、その補修は千差万別です。

摩耗した糸の交換や動きの悪い箇所があれば、その原因を取り除き、公演に万全の状態に臨めるよう整えます。

